

令和2年3月吉日  
船橋希望学舎  
世田谷区立船橋希望中学校  
校長 菅野 茂男  
学校関係者評価委員会事務局

令和元年度 学校関係者評価委員会の報告を受けて  
次年度に向けた改善方策

1 主体的な学習やSDGsへの取組に向けて

- (1) ICTを活用した学習活動の充実により、生徒の学ぶ意欲を向上させる取組を進め、情報活用能力や問題発見・解決能力、諸課題に求められる資質の向上を目指す。
- (2) 本年度に学舎で研究・実践してきたNIEや演劇的手法を用いた表現を、今後もさらに授業等で計画的に実践し、生徒の学習力の向上につなげる。
- (3) ユネスコスクール加盟校として、校内の自然環境や文部科学省エコスクールとして、グローバルシチズンシップを育み、持続可能な開発を促進するために必要な知識および技能を習得させる。

2 豊かな人間関係づくりに向けて

- (1) 様々な活動を通して、自己をいかす集団活動や体験活動をさらに充実させ、人権尊重、豊かな情操や感性、規範意識、自己有用感や主体性の育成など、社会の一員としての自覚と豊かな人間性を育てる教育の充実を進める。
- (2) 不登校傾向の生徒や集団生活になじめない生徒への対応については、スクールカウンセラーや関係機関、学舎の小学校等と連携して組織的に行う。また、教室環境の整備、学校行事の充実により、自己有用感が実感でき、精神的な満足感が得られる学校・学級づくりを推進することで、不登校の未然防止につなげる。

3 健康に生活する力を培うために

- (1) 保健体育の授業に対する興味と、努力し続ける意思を喚起させることにより、運動に親しみ、自身の健康保持や増進に対する関心を高める。
- (2) 食育の充実に向けて、オリンピック・パラリンピック給食を引き続き企画・実施する。また、食育リーダーと栄養士を中心に、食事を大切にし、自ら健康に留意して生活する態度を養う。
- (3) 様々な場面で、基本的生活習慣の確立や生活リズムの向上に向けての指導を行い、自ら体調を維持し、健康的に活動に取り組める力を育てる。